

リスクといってもいろいろありますが…

食品安全委員会委員長代理 佐藤 洋

食品安全分野のリスク評価

食品安全委員会の仕事には、「リスク評価」、「リスクコミュニケーション」、「食品リスクが高まる事件・事故発生時などの緊急時対応」などがあります。中でも、リスク評価は主要な部分を占めており、食品安全委員会は、国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、規制や指導などのリスク管理を行う関係行政機関から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正にリスク評価を行う機関とされています。ここで言うリスク評価は、「食品に含まれる可能性のある危害要因（ハザードと言われ、腸管出血性大腸菌O157などの病原菌、プリオン、食品添加物や農薬など）が人の健康に与える影響について評価を行うこと」で、具体的には、食品中の危害要因によってどの位の確率でどの程度の健康への悪影響が起きるかを科学的に評価することです。この場合、リスクの結果として起きることは、消化器症状（腹痛や下痢など）や、肝機能障害などの健康影響です。

様々にあらわれるリスク

さて、リスクと一言に言っていますが、世の中にはリスクは沢山あります。「ハイリスク・ハイリターン」は、損をするかもしれない（損する確率が高い）が、うまく行けば大きな儲けになる、と言う投資の世界の言葉です。

災害もリスクとしてとらえられています。私はつい最近まで宮城県に住んでいました。1978年（昭和53年）6月に「宮城県沖地震」が発生しました。東日本大震災の規模に比べると小さな地震でしたが、ブロック塀が倒れてその下敷きになった人が亡くなりました。地震の揺れで被害を受けた建物も多く見られました。

宮城県沖には、地震の巣があるらしく25

～40年という比較的短い間隔で周期的に地震が発生しています。1978年の宮城県沖地震のあとに、年毎の地震の発生する確率が示されました（図1）。2040年頃までには、確率的には100%地震が起きることになっています。なんとか次の宮城県沖地震にあわないですまないものと願っていましたが、まだその確率が30%程度の2011年3月11日の地震に遭遇してしまいました。

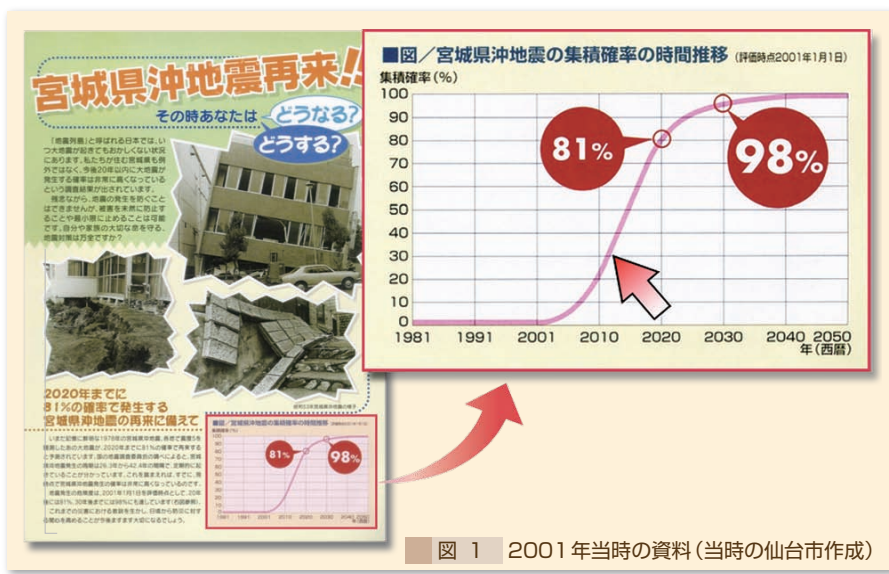
その時は東京で午前中の会議を終えて、東北新幹線で仙台に向かっている時でした。フルスピードで走行していた列車がスピードを落としました。大きく揺れて脱線するのではないかと考えているうちに、なんと列車は停止しました。地震に加えて、高速移動している乗り物にいたということが加わり、被害を受けるリスク（死傷する確率）は増大していたことになります。しかし、海からは遠く離れており津波のリスクはなかったことになります。地震という危害要因は状況に応じて複雑なリスクを生じさせ、またその結果も様々です。

リスクの伝え方

考えてみると、食品のリスクも異なった被害をもたらすことがあります。例えば、食中毒にしても、その病原によって、下痢や腹痛ですむこともあり、死亡することもあります。ただし、死亡例が出るような食中毒の起きる確率は、食中毒全体から見ればあまり高くないようです。BSEを起こすプリオンが人に伝達するリスクは高くないのですが、しかしながらいったん感染し、変異型クロイツフェルトヤコブ病を発症すると致死的です。

健康影響が致死的な場合には、起きる確率が低くとも、リスクは深刻に受けとめられるでしょう。放射線の影響についても、低被曝量での影響にはわからない部分がありますが、がんの発症の可能性があると考えると、やはりリスクの受け止め方は深刻になると思われます。

このように、リスクの受け止め方は多様です。正確に伝えるのはもちろんのこと、できるだけ受け取る側に立って伝えていかなければならないのだと思います。



食の安全への不安・疑問から情報提供まで、皆様のご質問・ご意見をお寄せください。

食の安全ダイヤル **03-6234-1177** 受付時間 10:00~17:00 (土・日・祝祭日、年末年始を除く)

[Eメール受付] <https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-0001.html>

食品安全委員会e-マガジン登録 <http://www.fsc.go.jp/sonota/e-mailmagazine.html>

「食の安全ダイヤル」「e-マガジン登録」は、食品安全委員会のホームページからもアクセスできます。

食品安全委員会ホームページ <http://www.fsc.go.jp/>

食品安全委員会

